

一般質問

■重点施策を進めるための人材確保について
コーディネートできる人材が必要では？

質

市長は、スポーツコミッションを立ち上げ、文化・スポーツ・地域資源を活かした新たな交流人口の拡大を図るとの考えだが、七尾市には魅力ある資源がいくつもあり、それらを融合して新しい魅力あるものにするには、これらに精通したコーディネートできる専門的な人材が必要だ。

国には、財源とともに必要な人材を支援する制度があると聞いている。重点施策はタイミングを逃さず、迅速に取り組むことが大事だ。市長の人材確保についての考えを伺う。

答

現在、それぞれの分野の担い手が、それぞれの立場でしっかり取り組んでいる状況であり、こうした担い手を結びつけさらに相乗効果を高めていくことが課題である。

外部人材の活用は、行政のデジタル化など、職員では専門性が十分といえない分野で具体的に導入が必要な課題がないか検討していく。

文化・スポーツコミッションに向けた人材については、数名の方に打診しており、採用には、地域プロジェクトマネジャー制度や地域活性化起業人など、新たな制度の導入も検討していく。



荒川 一義 議員 (無党派)



制度概要を説明する資料

一般質問

■自由通路について

七尾駅前と駅南地区を結ぶ通路を！



佐藤 喜典 議員 (無党派)



J R 七尾駅

質

駅南地区には七尾高校や七尾中学校がある。七尾駅から田鶴浜高校、東雲高校、羽咋方面へ通学する生徒もいる。

駅前と駅南地区を結ぶ自由通路は、地域住民だけではなく、通勤・通学の方の利便性の向上のためにも引き続き取り組んでいく必要があると思うが見解を伺う。また、駅前は、駅前とその周辺の総合的なぎわいづくりが必要と思うがどのような青写真を描いているのか伺う。



賑わい創出が期待される七尾駅前広場

答

駅の南に電車の停泊や保守点検基地などの施設があり、調整が難しく進展していないと聞いている。また、建設費用や施設機能の補償費、用地費など、多額の費用が試算されている。

自由通路は、地域住民や利用者の利便性の向上につながり、駅前は、パトリアだけではなく、その周辺の賑わいの創出も必要である。

経済界は、駅前周辺の賑わい創出にはJR西日本との連携が必要で、金沢まで来ている観光客を能登まで誘客するというところでJRへの要望を考えており、自由通路も含めて七尾駅の有効活用を協議していく。

一般質問

■風力発電事業について
七尾市長のリーダーシップを！

質

世界農業遺産の認定地である能登半島、特に七尾市周辺に多くの風力発電所が設置されることは是非を問う。

地球温暖化対策推進法が改正され、再生エネルギー事業を実施するうえで、市町村がやるべきことが明記された。周辺自治体と協議会を設置し、七尾市長がリーダーシップをとり問題意識を共有するべきではないか。

また、世界農業遺産の認定エリア内で自然環境を守りながらどうやって風力発電事業を進めるか。それは企業に求めるのではなく、エリアの設定など、自治体が示すべきではないか。

答

石川県が開催する調整会議や環境影響評価部会で情報共有し、市町の意見は、環境影響評価部会が専門の見地に基つき事業者に見解を伺う。環境アセスメントによる組織的な対応がされているため、風力発電に特化した協議会は今のところ設ける予定はない。

事業者には、世界農業遺産の価値を失わないよう十分な配慮と適切な措置を要請する。再生エネルギー事業については、改正法等、国の動向を注視しながら対応していく。

●七尾市周辺で計画されている事業

事業名	基数	事業名	基数
(仮称) 七尾志賀風力発電事業	12基	(仮称) 中能登ウィンドファーム事業	15基
(仮称) 志賀風吹岳風力発電事業	9基	(仮称) 能登里山風力発電事業	17基
(仮称) 能登中風力発電事業	16基	(仮称) 虫ヶ峰風力発電事業	13基

※基数は計画されている最大数。虫ヶ峰風力発電事業の基数は新規設置予定数（既設10基）



桂 徹男 議員 (灘会)

